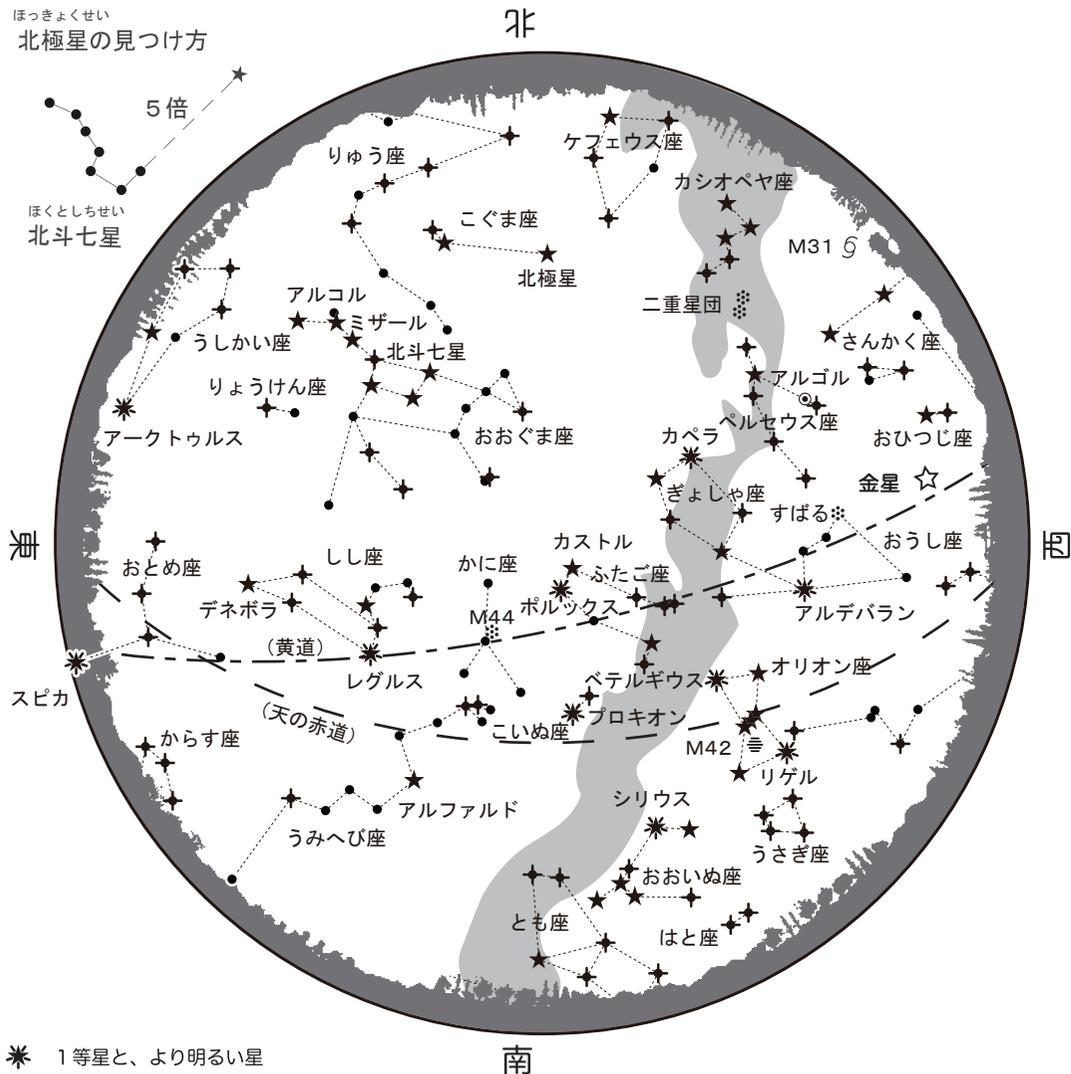


富山でみえる 2020年3月の星空

自分の見たい方向を下にして、その方向の空を見よう。



- ※ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ≡ 星雲
- ♁ 銀河

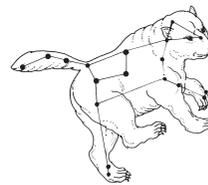
この星空が見えるのは

- 3月 5日 午後9時ころ
- 3月 20日 午後8時ころ
- 4月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

- 3月 3日 上弦 ☾
- 3月 10日 満月 ○
- 3月 16日 下弦 ☽
- 3月 24日 新月 ●

おおぐま座



北極星を探す目印として有名な、ひしゃくの形の「北斗七星」がある星座です。北斗七星は、おおぐまの背中からしっぽの部分になります。ひしゃくの柄の端から2番目の星は、ミザールとアルコルという、肉眼でも分かる二重星です。

こぐま座



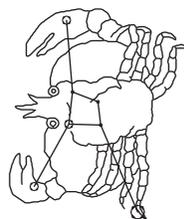
長いしっぽの先には北極星があり、おおぐま座とペアで親子グマと言われています。こぐま座には北極星と同じくらいの明るさの2等星コカブがあり、北斗七星からたどるときは間違えてしまうことがあるので注意しましょう。

ふたご座



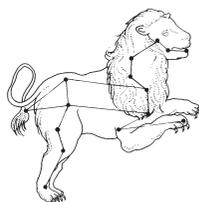
オリオン座の北東でなかよく並んだ2つの明るい星がふたご座の目印です。やや黄色っぽい色の1等星が弟の星ポルックス、白い色の2等星が兄の星カストルで、色の違いがきれいです。カストルは望遠鏡を使うと2つの白い星が並んで見える2重星です。

かに座



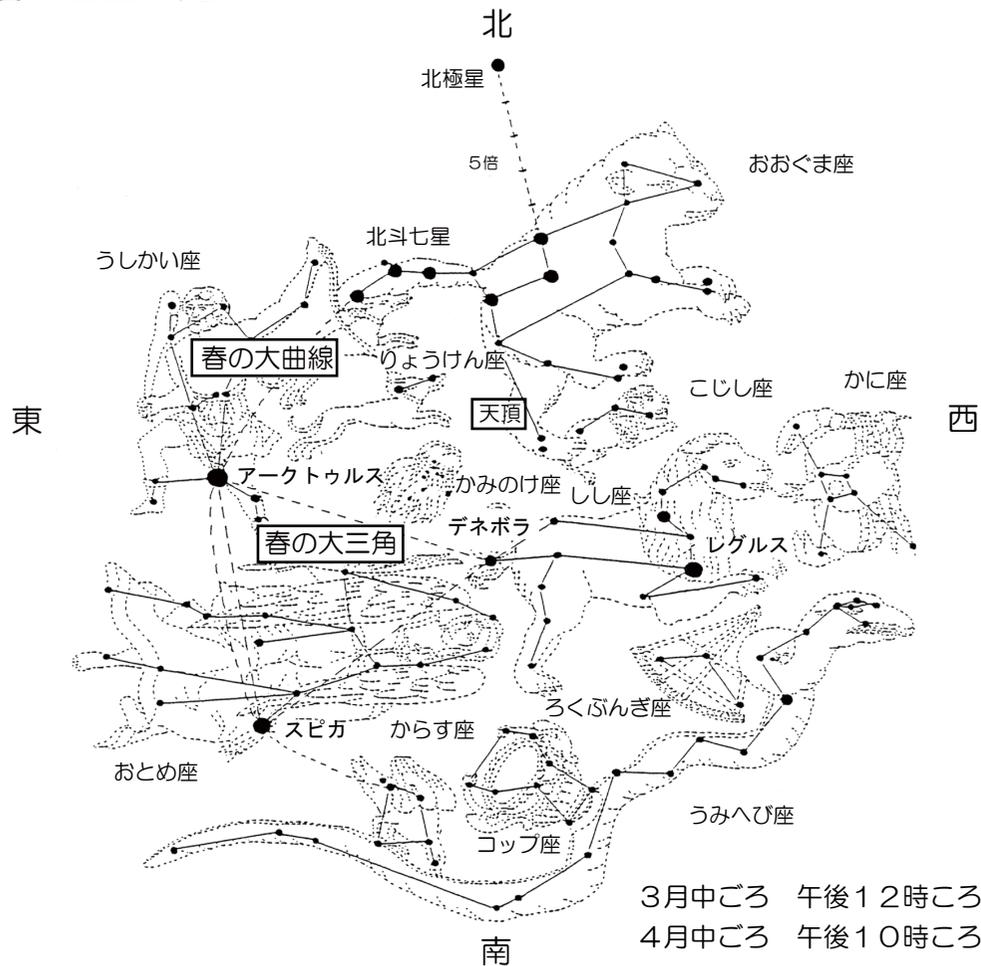
ふたご座としし座の間には明るい星のないところがあり、ここがかに座です。よく見ると、暗い星が小さな四角を作っています。この四角の中には、プレセペ星団 (M44) と呼ばれる星の集まりがあり、空の暗いところでは肉眼でも見ることができます。

しし座



「？」マークを左右裏返しにしたような星の並びがしし座の目印で、「ししの大鎌」といいます。この大鎌のいちばん下で白く輝く星が1等星のレグルス、しっぽの星が2等星のデネボラです。今にもジャンプしそうな姿を星空に作るすることができます。

春の星座のを見つけかた



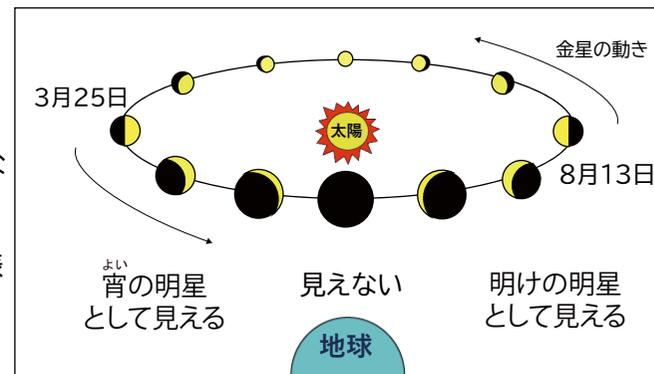
- 1 北の空で、北斗七星を見つけます。
- 2 北斗七星の柄のカーブを伸ばし、うしかい座のアルクトゥルス、おとめ座のスピカ、からす座と続く「春の大曲線」を見つけます。
- 3 アルクトゥルス、スピカ、しし座のデネボラでつくる「春の大三角」を見つけます。
- 4 北斗七星のはしの2つの星を結んで天頂方向に伸ばし、しし座のレグルスを見つけます。
- 5 星座の中でもっとも大きいうみへび座、2番目に大きいおとめ座、3番目に大きいおおぐま座を見つけることができると楽しいですね。

3月中旬ごろ 午後12時ころ
4月中旬ごろ 午後10時ころ

金星に注目！

夕方西の空高くにととも明るい星が見えていませんか？ おそらく、その星は「金星」です。金星は、夕方西の空に見えると「宵の明星」、明け方東の空に見えると「明けの明星」と呼ばれ親しまれています。今年は宵の明星を5月中ごろまで、明けの明星を7月から12月末ごろまで見ることができます。

金星は、自ら光を放っているわけではなく、太陽からの光を受けてかがやいています。下図のように、金星は地球よりも内側を回っているため、地球に向いている面が変化し、月のように満ち欠けします。3月25日ごろの金星を望遠鏡で見ると半月のように見え、だんだん三日月の形になっていきます。このとき地球に近くなるので、見かけは大きく見えます。その後、いったん見えなくなってから、再び三日月、半月へと形を変えていきます。さらに、遠く離れるにつれて、丸く小さく見えるようになります。

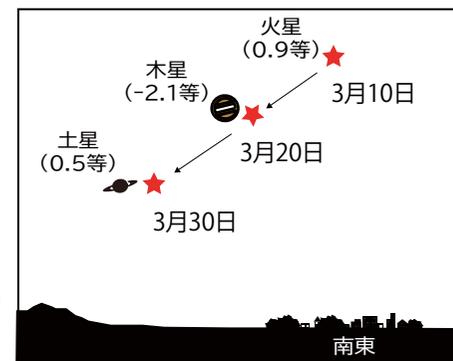


明るくかがやく金星の様子に、注目してみてください。

金星の満ち欠け

火星が木星、土星に接近

3月に入ると、夜明け前の東の空に、火星、木星、土星の3つの惑星が昇ってきます。特に、火星の動きは木星や土星に比べて速く、大きく移動するため、3惑星の位置関係はみるみる変わっていきます。その変化を観察してみましょう。



午前4時30分ごろ